

平成15年4月14日

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第2号を送付します。

平成15年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成15年4月14日

高知県病害虫防除所長

1. 病害虫名 ナスコナカイガラムシ(仮称)
学名 : *Phenacoccus solani* Ferris
2. 発生作物 ピーマン、シシトウ、ナス
3. 発生確認の経過
(1)平成12年2月、安芸郡芸西村および南国市の促成ピーマンにおいて、これまで見られなかったコナカイガラムシが発生し、排泄物による汚れ(スス病)などの被害が見られた。
(2)東京農業大学河合省三博士に同定を依頼したところ、これまで国内では未発生のナスコナカイガラムシ(仮称)と同定された。
(3)平成14年度に調査を行ったところ、天敵を利用した栽培を行っている促成ピーマン、シシトウ、ナスにおいて発生が確認された。
4. 形態
雌成虫は楕円形で体長3~5mm。体色は橙褐色で、白色粉状のロウ物質で覆われる。体周縁の白色ロウ物質分泌物の突起は18対あるが、短く目立たない。卵のうは形成しない。
5. 分布、生態および被害状況等
(1)国外では中・南米(メキシコ~ブラジル)、ハワイ、ミクロネシア、南アフリカなどに分布している。国内ではこれまで未発生であった。
(2)寄主植物については国外では、これまでにアブラナ科、ナス科、キク科、ミカン科、トウダイグサ科などが記録されている。県内ではピーマン、シシトウ、ナスで寄生が見られている。
(3)雌成虫は卵のうは形成せず、直接産仔する。産仔数は約200である。雌では1齢、2齢、3齢幼虫を経て成虫となる。雄はみられず単為生殖をおこなう。なお、詳細な生態については調査中。
(4)本種は主に葉、莖に寄生する。果実に直接寄生することは希である。排泄物にスス病が発生し、莖葉や果実を汚す。
6. 防除対策
(1)ピーマンについては平成15年3月にチアメトキサム剤(アクタラ顆粒水溶剤)がコナカイガラムシ類対象に農薬登録を取得している。また、ネオニコチノイド系(アドマイヤー、モスピランなど)、合成ピレスロイド系(アグロスリン、トレボンなど)、有機リン系(スミチオン、DDVPなど)、アプロード、ラノーなどの殺虫剤が有効であるので他作物では、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類防除を行う際に、これらの薬剤を選択することで同時防除が可能である。なお、ネオニコチノイド系(チアメトキサム剤含む)、合成ピレスロイド系、有機リン系の殺虫剤は天敵類に対し影響が大きいので天敵利用栽培では使用を控える。もし使用する場合はスポット散布にとどめる。
(2)初期はほ場内の一部に発生し、その後拡大していくことから、早期発見に努め、捕殺(つぶす)する。
(3)本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生する可能性が高いため、施設内への観葉植物等の持ち込みを控えるとともに、施設内外の除草に努める。